



公立芽室病院 第56号

だより

ホームページアドレス
http://memuro.com
又は芽室町ホームページのトップページから
アクセスできます。

記念講演会

今回は当院の「赤ちゃんにやさしい病院」(BFH) 認定を記念して芽室町中央公民館にて行われた記念講演会の様子をお知らせします。当日は160名を超える医療関係者やお子様連れのお母さん方にお集まりいただき、会場は熱気であふれていました。

芽室町長の挨拶の後、昨年のBFH認定施設の旭川医科大学付属病院小児科講師、林時仲医師からお祝いのメッセージをいただきました。

日本母乳の会運営委員長で国立岡山病院機構岡山医療センター小児科・臨床研究部長の山内芳忠先生、同じく日本母乳の会運営委員でフリージャーナリストの永山美千子先生にご講演いただきました。

『子育て力をつくる母乳育児、話しかけ子育て』と題し

永山美千子先生

「赤ちゃんにやさしい病院」認定にあたり、産科・小児科医・医療界をとりまく環境は大変なものになっていますが、公立病院でこれだけのことができるという日本のモデルケースとして、日本中に発信して欲しいと思います。

なぜ私が母乳育児に関心を持つようになったかというと、出産後のお母さんたちが母乳をあげたいと思いつながりながらそれに対する自信のなさ、小児科医は母乳がよいと言いつながりながらミルクの記事を作ることへの疑問、乳房マッサージがお産より辛かったというお母さんたちの言葉などに疑問を持ったからです。

母乳が出るから飲ませるのではなく、赤ちゃんが吸うから出る、「足りない」という言葉は生きる本能に訴える言葉、どうしてもミルクを足さなければと思ってしまいます。粉ミルクは薬のような存在と考えるとよいでしょう。

母乳育児は母子双方に同時に恵みをもたらすものです。そのためには出産直後からの母子同室が重要です。母子を一对とする考え方で、赤ちゃんに母親が必要なように、産んだお母さんにとっては赤ちゃんの存在が必要です。

母乳育児というのは母乳を含めた子育ての文化です。ただ母乳かどうかということではなく知恵を伝えていくのです。母乳育児につまずくのは、赤ちゃんが成長する時(首がすわる前・おすわりの前)におっぱいをもつとごく要求する。これが「足りないんじゃないか」と

思わせてしまう。育児書では、赤ちゃんの発達には斜め一直線に大きくなるようになっていきます。昔はおばあさんなどが「大きくなるのよ」「(おっぱい)飲ませていたら良いのよ」と言ってくれましたが、今はお母さんたちが赤ちゃんのことがわからない現状です。

おっぱいを飲ませると抱っこはついてくるものです。話しかけはお母さんが意識して行って欲しい。お母さんがしてくれる行動が言葉掛けによって赤ちゃんの感覚を呼び起こしてくれるのです。オムツを替えるときに無言ですると「お尻が気持ち良いね」と言うのでは違うのです。

最後に、芽室のお母さんたちが子育てのしやすい町になることを願ってやみません。母乳育児は自然に丁寧な母子関係ができます。ミルクで育つ子は母子関係をもっと丁寧にしたい。母乳の子が増えてミルクの子も共に育つ、ミルクの赤ちゃんも包み込むような母乳育児ができる芽室の町であって欲しいと思います。



『母子から家族、地域そして社会へのメッセージ』と題し

山内 芳忠先生

BFH認定おめでとうございます。これからは母乳育児をとりまく環境を取り戻す必要があるのだと思います。BFHを取得された皆さんにとっての本物の役割がはじまります。

日本の未熟児医療に多大な貢献をされた山内逸郎先生は、じつは小さく生まれた子をどう大きくしていくかというミルクの研究者でした。ところが、はじめミルクで順調に育っていた子が2～3週間で脱水や嘔吐



平成18年度リハビリテーション診療報酬改訂について

リハビリテーション科係長 岡田 征志

平成18年4月の改訂により、リハビリテーションの実施に日数制限が付いたことが、テレビや新聞のニュースや特集などで大きく取り上げられています。今回はこれについて簡単にご説明しますが、日数制限の他にも対象疾患が制限されたり、疾患別に診療点数が定められたりするなどの変更も行われています。

今まではどの疾患でも共通だったリハビリテーションの診療点数は、4つに大別されました。そしてそれぞれに実施日数の上限が定められています。

脳血管疾患等(180日)、運動器(150日)、呼吸器(90日)、心大血管(150日)となっています。それぞれに対象疾患が細かく規定され、その対象外の方は、リハビリテーションを行うことができません。

日数制限を過ぎても継続が可能な場合もありますが、これは特に定められた疾患で、一定の条件を満

といった症状がみられたので、ミルクそのものを疑いましたが、母乳の子にはそういった症状がおりませんでした。そこで母乳のすばらしさを実感し、日本中の子供たちが母乳で育てたいと、広めていくことを始められました。

BFH認定書に描かれた「母子像」はピカソのデッサンです。授乳行動の基本がここに込められていると感じとれます。

出生直後のカンガルーケアでは、生まれてすぐの赤ちゃんをお母さんのお腹にのせると這い上がって自分で乳首を吸い始めます。母と子の新たな交流ができる意義がカンガルーケアにはあると思います。赤ちゃんは色々な表情をします。「抱っこ」「見つめ」「語りかけ」そして「授乳」には五感の総動員が必要です。ピカソの母子像にはこれらの全てが集約されていると言えるでしょう。

これからの子育てには家族の参加が大切です。核家族の中での育児不安を取り除く、色々な方が参加して情報交換できるような環境を整えていくことが大切です。母乳育児を長く続けることは様々な利点があります。今後、地域をどのように巻き込んで母乳育児の推進・拡大に取り組むかが重要になってくると思います。昔は当たり前だった母乳育児が今ようやく当たり前のことのように戻りつつある。その灯を消すことのないよう、地域で母乳育児が広がるように切にお願いしたいと思います。現在43か所の認定施設がありますが、全ての都道府県で認定施設ができるように働きかけていきたいと思っています。

たし、定期的な医師の診察と処方を受けた場合のみ行うことができます。ただしその内容はとても厳しく制限されています。

詳しい内容を知りたい方は、当院リハビリテーション科までお問い合わせ・ご相談下さい。

〒公立芽室病院 リハビリテーション科 ☎62-2811

